

東海道四十二番目の橋。

# 東海道五十三次

## 桑名くいな

七里の海路を経て桑名宿へ。

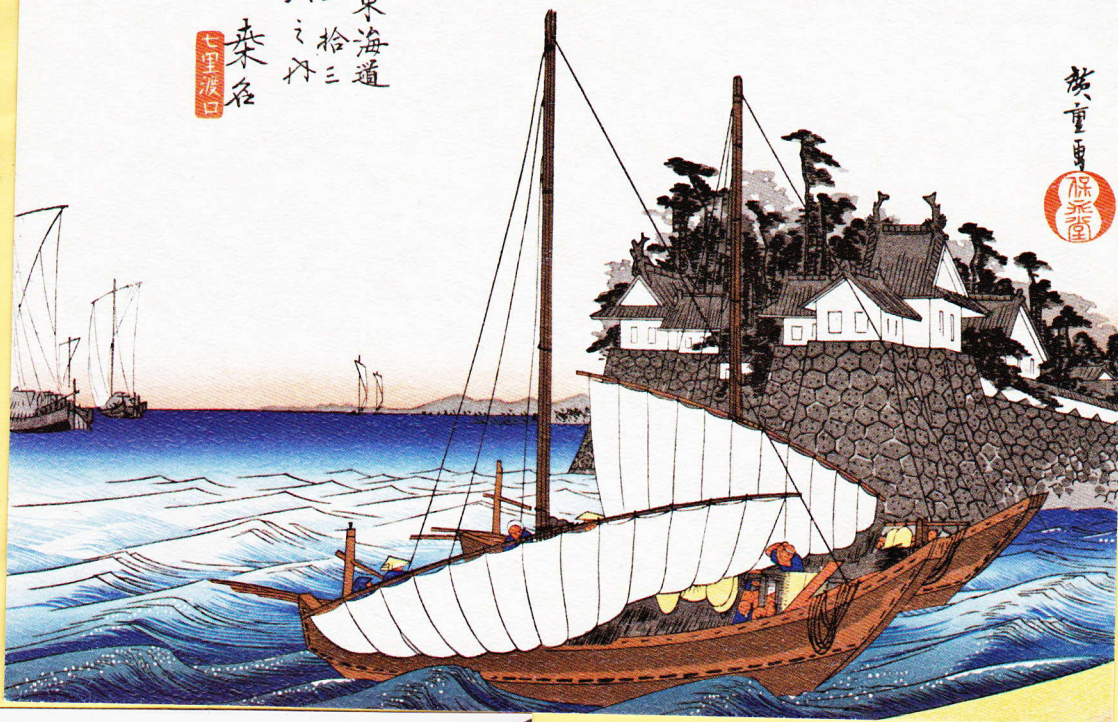
宮と同一く、ここもたいへんにうわていた。  
堀に沿った町並みは、泉鏡花の歌行燈に  
さながらの趣。  
名物の時雨はまぐりの店も多し。

↑見どころ！天武天皇、天武天皇が壬申の乱の時、  
桑名にとどまられたことに由来する神社。  
☆見櫓、ハシゴと半鐘を復元。  
このあたりは矢田の立場で  
古い町並み。

常夜灯



旅重良 保栄堂



東海道  
五拾三  
次

桑名

七里渡り

広重の絵は船が桑名の  
渡し場へつたところ。海中  
からそびえ立つ桑名城が  
この地のシンボルである。  
いまでは城にかわって大  
きき水門が幅をきかせ  
ている。広重の絵の波を  
見れば、小さな船はかぎり  
揺れている模様。七里の渡  
しを避けて、  
佐屋街道から三里の  
渡しを渡り、旅人が  
みかつたといつのも  
うなずける。

渡し場の西には高級料理旅館  
の山月（船番所、船本陣跡、河屋跡）  
と船津屋（大塚本陣跡）がならんでる。  
渡し場跡から東海道は南にのびてる。  
船合所、伝馬問屋、丹羽本陣ならん  
でいたか、いまは表示碑のみかたててる。  
平成三年に修景がなされ、路面は博物館  
前まで石畳風。

堀り割りすわい風景。

